新年のご挨拶

一般社団法人日本エレベーター協会
会 長　　網谷　憲晴

新年、明けましておめでとうございます。
旧年中は当協会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も引き続きご支援をお願い申し上げます。

昨年開催されました 2025 年日本国際博覧会(関西・大阪万博)が成功裏に終了したことは、我が国にとって大きな喜びであり、昇降機メーカー各社の多大なるご尽力とご協力に心より感謝申し上げます。皆様の技術力と安全への取り組みが、世界に誇れる日本の品質を示すものとなりました。

さて、2026 年の日本経済は、引き続き緩やかな回復基調を維持しつつも、世界的な景気減速や資源価格の変動など、不確実性が一段と高まる見込みです。そうした状況の中で、企業は持続的な成長に向けて、さらなる効率化が求められています。

建設・エレベーター業界では、AI・IoT を活用した建設 DX が急速に進展しており、エージェント AI などの技術革新は、施工管理やメンテナンス業務においても大きな改善をもたらしています。ウェアラブルカメラやセンサー情報を解析し、危険エリアの自動検知・警告や故障予兆の診断など、現場の安全確保と作業効率は飛躍的に向上しています。こうした取り組みの重要性は、これまで以上に高まっており、デジタル技術と現場力の融合が、持続的な成長を左右する鍵となっています。

一方で、労働災害の撲滅は依然として産業界の最優先課題であり、昇降機業界においても 2025 年度は 17 件（12 月末現在）の労働災害が発生しており、施工管理・メンテナンス現場での安全管理の徹底が急務です。本年度は、協会として安全教育の強化、現場でのリスクアセスメントの徹底を図り、業界全体で労働災害ゼロをめざし、取り組みを強化してまいります。
本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後に、この一年が、皆さまとご家族にとって安全で健やかなものとなりますよう、心よりお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。